資料１

令和４年度　第１回江別市かわまちづくり協議会　会議録（要点筆記）

日　　時：令和４年８月２５日（木）　１４：００～１６：３０
場　　所：江別市民会館３７号室
出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、内田悟委員、柏村章夫委員、林匡宏委員、境珠美委員（計６名）
欠席委員：若狭洸介委員、藤原英大委員
事 務 局：経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、総務部契約管財課長、企画政策部政策推進課長、建設部管理課参事、管理課主幹、建築住宅課長、治水課長、治水課主幹、教育部郷土資料館長、江別河川事務所（２名）、北電総合設計㈱（２名）、商工労働課主査（２名）、他２名
傍 聴 者：１名

会議概要

１．開会
２．議事
(1) 前回協議会の開催結果（説明：事務局 半田主査）
(2) かわまちづくり勉強会開催報告（説明：事務局 半田主査）
(3) かわまちづくり計画書について（説明：事務局 半田主査）
(4) かわまちづくりの進め方について（説明：事務局 半田主査）

- 林委員：概略設計、実施設計が進んでいる堤防水辺整備は、どのエリアを想定しているのか。来年度このエリアは入れないといった制約はあるのか。
- 江別河川事務所 濵口計画課長：令和 5 年度の堤防整備工事については、堤防予定箇所の埋設管を撤去する工事である。堤防整備については、令和 6 年度以降に着手していく予定である。工事が始まると条丁目地区側でも入れなくなる場所は出てくると思う。
- 小篠会長：社会実験や活動をしたい時に江別河川事務所から事前に情報をもらってすり合わせをするというやり取りが必要になるという理解でよいか。
- 江別河川事務所 大石所長：工事が入る場所や時期を見計らって、情報を交換させてもらいながらやりたいと思っている。
- 小篠会長：かわまちづくりで想定している整備内容に関連する設計が始まるのであれば、そのことについて事前に話をいただきたい。協議会の開催スパンが長いので、勉強会あるいは少人数の関係者で共有し、どういう対応をとればいいのか考えていく必要があると思う。
- 江別河川事務所 濵口計画課長：今年度概略設計を発注していくので、江別市と調整しながら一緒に考えていければいいと思う。一旦話がまとまった段階

でご相談させていただきたい。

- 江別河川事務所 大石所長：実施内容や範囲について常時情報提供しながらの方がスムーズに進むと思う。
- 小篠会長：協議会は勉強会をコントロールする側なので、随時情報をいただきたい。そうでないと、勉強会のテーマやスケジュールが変わってくる状況もあり得る。
- 事務局 川島商工労働課長：協議会で認めてもらえるのであれば、小篠会長、江別河川事務所と江別市で素案を考えながら進めさせていただきたい。
- 小篠会長：土木の場合、概略設計でかなり方向性が決まってしまう。旧岡田倉庫の方も移転先を決定するということだけではなく、実施設計に入ることになる。そういう意味で、今まで自分たちが協議会や勉強会で話してきたことがすぐ設計に反映されていくことになる。一旦設計で決まると進んでいくので、そういう意味ではかなり重要なポイントに来ている。機動的に動かないといけないので、協議会会長や事務局に任せていただきながら、その都度皆さんに報告しあるいは議論に参加してもらう仕組みにしたい。
- 林委員：大きな方向性は勉強会でかなり議論してきて出し切ったという思いがある。これからは、本当に具体的に誰が何をやるのかを真剣に考えていく必要がある。詳細については、事務局や協議会会長と詰めさせていただきたい。他の町の事例では、地元の人たちの意見を聞きながらそれを実現できる新しいプレイヤーを呼んでくる、そういう人の知見を聞いてノウハウを学ぶといった外に開いた場を作っている。条丁目地区に色々な外部の企業が営利目的で入ってくるということではなくて、今まで勉強会で議論してきたかわまちづくりの方向性を実現するための具体的な議論をするフェーズにそろそろ来ていると思う。
- 小篠会長：春から夏に行われたかわまちづくり関連の活動での課題を洗い出して、誰が汲み上げていくのか、誰と組んだら突破できるのかというような仕組みに結び付けたいと思っている。
- 境委員：JR 江別駅への条丁目地区の幼稚園の塗り絵展示がきっかけで、幼稚園の先生と話す機会があり、勉強会に是非参加したいとのことだったので、難しいかもしれないが、子どもたち目線の意見を聞くために勉強会に幼稚園の先生のテーブルがあってもいいと思う。
- 小篠会長：お時間が許せば参加していただいた方が雰囲気もわかるし、時間の制約があるのであれば、事前に自分たちの意見を託してもらい、それを勉強会で紹介するということも可能だと思う。
- 柏村委員：観光協会でやっていることとだいぶ重なる部分があるので、運営を考えていく段階で、他の団体と一緒に協議する場を持って具体的な施策を考

えていく時間があってもいいと思う。

- 小篠会長：まちづくりを推進していくためのパートナーが必要だが、人材は枯渇している。そういった話は少人数の協議会でしてこなかったので、勉強会でテーブルを囲んで議論・発表していただいた方がより一般の人にも伝わると思う。観光協会でまちづくりをどう推進していくのかいうアイデアを今まで紹介してもらったことがないので、それを勉強会で少し紹介してもらえると大いに参考になると思う。
- 境委員：条丁目地区と観光協会の連携を期待する声も挙がっているが、完全に新陳代謝を失っている街で連携して何かをやるというのは非常に難しい。ただ、少し代謝が上がってきているのを感じているので、小さめのイベントを継続的に実施しながら、切り口を変えて一緒にやっていけたらと思う。
- 小篠会長：点と点になっている人のネットワークやチャンネルを作っていく作業が非常に大事だと思う。いきなり組織は作れないので、普段の会話から何かやるというところまでの一連のプロセスの中で見つけていくことなのだと思う。
- 内田委員：この街が新陳代謝していないというのは、何をやるにしても集まる人が同じだったからだが、境委員が色々なイベントを実施してきたことで、条丁目地区の人たちが覚醒してきているのではないかと思う。そのことを踏まえた上で、地元の人間の普段使いで何ができるのかという提案があればよいと思う。今、条丁目の人間が最も求めているのがコンビニである。これは本当に大きな課題で、高齢者にとっては買い物も難儀で人に頼んで買い物をしないといけない。そういった大きな課題を抱えているので、もしこの事業が上手くいって、多くの人が行き来してコンビニができればいいなと思っている。
- 小篠会長：地域に住んでいる人たちが普段の活動の中で、どんなことができるようになればいいかということも広い意味での観光であると捉えていくことが非常に大事だと思う。
- 鴻野副会長：これまでの議論で課題が出てきていて、今後、変えるという部分では、どう管理・運営していくのかといったところをぐっと押し進めていく必要があると感じる。
- 小篠会長：管理運営方法や組織体制を検討しつつ、何か小さい事をやってみながら、できたことやできなかったことをフィードバックしながらやっていくということで、一年半くらいの時間をかけてやっていかないと無理だと思う。

(5) 対岸側河川空間の利活用について（説明：事務局 半田主査）

- 小篠会長：石狩川合流点付近の整備の概略設計・実施設計については、完全にオフグリッドでいいのか、何か敷設しなければいけないのかという方向性は今年度で決定しておく必要があるということか。

- 江別河川事務所 濵口課長：ある程度の方向性が決定すればありがたい。
- 林委員：リミットがあるならば、その時点でまとめていく必要があると思う。大枠でゾーニングすることは経験上できる。今までの勉強会の議論で、誰がやるのかが見えてこないので、準備組織づくりがかなり重要になってくると思う。今年度中にやるようなスケジュールになっているが、10 人くらい集まって具体的に話ができる場や色々実働で動いている人たちが発言できるような準備会を作ってもよいと思う。そこで気になるのは地元の人たちへの情報発信で、その情報をいかに開いて皆に知ってもらうかが非常に大事だと思う。
- 内田委員：イベント時の清算等を管理する事務局が必要になってくる。
- 小篠会長：使い方のルールを決めていく必要があって、例えば、利用者にそれなりの料金を払ってもらうようなことができれば、管理する団体の運営費や活動資金になっていくと思う。これは都市・地域再生等利用区域を指定するような話になるのか。料金の支払先は北海道開発局になるのか。
- 江別河川事務所 濵口課長：基本的には江別市が占有主体になるので、江別市がルールを決めることになる。
- 事務局 川島商工労働課長：基本的にはそういう考え方でよい。このエリアで何をどうやりたいかが固まった段階で、何がルールや制度として適切なのかという判断が指定管理も含めて加わることになると思う。
- 小篠会長：市民側で組織を作れるかどうか、観光協会や NPO 等色々な方々に参加していただくような形でもよいが、かわまちづくりを運営していく主体がコントロールすることになると思う。勉強会が上手く使えると思う。勉強会に外からの人が参加しやり方を提案していただいて、それを地域の方々からご意見いただくというようなやり方もありだと思う。
- 境委員： 10 名くらいで具体的な話をする場合に、全員がコーディネーターみたい人だったら、大変だと思う。少しずつ見えてきた条丁目地区の住民の熱い思いがあって、そういう実際に動いている人も考慮してやっていかないといけない。どう声を掛けていくのか、現場の人がコーディネーターとして入りたいかどうかも分からないので、非常に慎重にやっていく必要があると思う。
- 小篠会長:現場にどんな人的資源があるのか、その人たちが些細な事でもいいからやれることがあるのか拾い出して紡いでいく中で実働部隊ができていくということだと思う。それをいきなり勉強会でやってもそうはならないので、下地作りというか、事前検討をするワーキングの小ワーキングみたいなものを作って動かないとダメなのだと思う。それで動かせる案を考えてみたい。
- 林委員：勉強会で、本当にやりたいことを持っている人にアイデアベースではなく発表してもらえればよいと思う。かわまちづくりは、現場で動くアクションの部分と全体のマネージメントをする部分の二層に分けて考えていいと思

う。

- 林代表：勉強会はアクションをする人の集まりなので、その次のステージへ行くのは大賛成である。観光協会のワーキングは、本当に事業としてこれやりたいという人を集めている感じなので、そのような熱量のある場を条丁目地区版として勉強会でやるとワンステージ上がると思う。全体をマネージメントする会議だとこれまでのフェーズと変わらないので、今後指定管理を受ける組織になることを前提にして会議を立ち上げた方がよいと思う。
- 小篠会長：協議会会長に一任させていただき、大まかなスキームを事務局と一緒に考えていきたい。

(6) その他（説明：事務局 川島課長）※旧岡田邸の調査結果についての概要説明

- 小篠会長：旧岡田倉庫だけでなく街並みで考えた時にどういう配置がいいのかを検討した上で移設位置を決定することを設計条件に盛り込んでほしい。
- 境委員：条丁目地区全体を地域遺産という形で残していかないといけない。どう残すか、インフォメーションする役割等も含めて考えていけたらいいと思う。
- 小篠会長：最終的にここはどうなるのか、何を目指しているのかを絶えず発信していかないといけない。完成までどれくらい進んだかというような話もまちづくりの中で運営団体が背負っていかなくてはならない。
- 林委員：移設位置や母屋との接続に関する方向性を協議会で提案し、江別市で意志決定する形になるのか。
- 事務局 川島商工労働課長：協議会で、市民の方が望まれるのはどういうものかを議論・提案していただく形になると思う。最終的にそれをどうするのかは江別市が決定して動かなければならない。
- 林委員：そうなると、市民意見を集める場がまた必要になるが、勉強会である程度時間を取って意見を集めるのか。
- 小篠会長：周辺の建物と一緒に考えて位置を決定するということを条件に設計をまず考えてほしい。位置の問題だけで、全部を設計しようと言っている訳ではない。協議会としてそうしないと、まちづくりを進めるということにはならない。移設できる位置に移設してくれればいいという話ではないので、歴史的価値が周辺の街並みにも良い影響を残すような形で移設をしてほしいというのが、その協議会としての考え方である。
- 事務局 川島商工労働課長：移設位置をテーマに協議会を実施するのは支障ないが、スケジュールの問題がある。
- 小篠会長：スケジュールに合うような形で今言ったような内容を盛り込めていければと思う。
- 境委員：駐車場のことが引っかかっている。例えば制約があって、土堤に勝手

に駐車したらダメなのか、よくわからない。

- 境委員：そこの制約が明確であれば、時間のロスがないと思う。
- 小篠会長:ゼロからやると時間かかるので、駐車場や広場、進入道路を平面図で示してもらい、それを見た上で話をした方がよいと思う。

３．閉会

以上